

1997年度
試験問題付

[新版]



国連 英検

D 級突破

NCB英会話教習所 編
龍谷大学助教授 李 洙任 著



付：C級対策講座

SANSHUSHA

●国連英検シリーズ●

CDブック+

国連英検B級突破——付:A級対策講座

CDブック+

国連英検C級突破——付:B級対策講座

CDブック+

国連英検D級突破——付:C級対策講座

CDブック

国連英検A・B級必修単語1000

NCB英会話教室 編
龍谷大学助教授 李 洙任 著

[新版]

CDブック+

国連英検D級突破

発行——1998年12月10日 第1版

編者——NCB英会話教室

著者——李 洙任

発行者——前田完治

発行所——株式会社三修社

〒110-0004 東京都台東区下谷1-5-34

営業 03-3842-1711

編集 03-3842-1631

<http://www.sanshusha.co.jp/>

振替 00190-9-72758

編集担当 小島和子

印刷所——萩原印刷株式会社

© 1998 Printed in Japan

ISBN4-384-01768-5 C2082

[R]〈日本複写権センター委託出版物〉

本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。
本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(☎03-3401-2382)にご連絡下さい。

国際派必携の資格にチャレ

国連英検

D級突破

NCB英会話教習所 編

著者：李 洙任

山本康之

谷口弘美

付：C級対策講座

SANSHUSHA

CDトラック対応表

CD	ページ	CD	ページ
1 ◆ handbag はハンバツ?!	161	41 Questions 1, 2	174
2 練習	162	42 3, 4	174
3 練習問題 1	162	43 5, 6	174
4 ◆ can / can't ... キャンと聞こえたら can? can't?	162	44 7, 8	174
5 練習	163	45 9, 10	175
6 練習問題 2	163	46 [II] 日本語指示文	175
7 ◆ Take it easy. はテキリースイー?!	163	47 Dialogue (1回目)	179
8 ◆ good deal はグッディー?!	163	48 (2回目)	179
9 練習	164	49 Questions 11, 12	175
10 練習問題 3	164	50 13, 14	175
11 ◆ Kick him out はキツキム アウ?!	164	51 15, 16	175
12 練習	165	52 17, 18	175
13 練習問題 4	165	53 19, 20	175
14 ◆ Give me a break はギミアブレイ?!	165	1994年第2回C級リスニング問題	
15 練習	166	54 [I] 日本語指示文	183
16 練習問題 5	166	55 Passage (1回目)	186
17 ◆ Sit down, please. はシランプリー?!	166	56 (2回目)	186
18 練習	167	57 Questions 1, 2	183
19 練習問題 6	167	58 3, 4	183
20 ◆ winter はウィンナー?!	167	59 5, 6	183
21 練習	168	60 7, 8	183
22 練習問題 7	168	61 9, 10	184
23 ◆ cup of tea はカツパティー?!	168	62 [II] 日本語指示文	184
24 練習	168	63 Passage (1回目)	192
25 練習問題 8	169	64 (2回目)	192
26 ◆ of + 母音例	169	65 Practice Test 1 日本語指示文	197
27 練習	169	66 Dialogue (1回目)	211
28 練習問題 9	170	67 (2回目)	211
29 ◆ 助動詞 + have + 過去分詞 ...could have been はクダビン?!	170	68 Questions 1, 2	197
30 練習	170	69 3, 4	197
31 練習問題 10	171	70 5, 6	197
32 What did you do? はワツジャドウ?!	171	71 7, 8	197
33 練習	171	72 9, 10	198
34 練習問題 11	172	73 2 日本語指示文	198
35 ◆ setting sun はセツンサン?!	172	74 Passage (1回目)	213
36 練習	172	75 (2回目)	213
37 練習問題 12	173	76 Questions 11, 12	198
1994年第2回D級リスニング問題		77 13, 14	198
38 [I] 日本語指示文	174	78 15, 16	198
39 Passage (1回目)	176	79 17, 18	198
40 (2回目)	176	80 19, 20	199

はじめに

国連英語検定試験合格を目指している方々へ

国連英語検定試験合格に必要な英語力とはどの程度の英語力を指すのでしょうか。D級の評価基準は中学卒業程度の基礎的な語彙力で、簡単な文章の理解と表現ができることとあるので、それ程高度な英語力は必要ないといえます。しかし、従来の文法、訳読中心の勉強法を続けていては、オールラウンドな英語力は身につけませんので、将来C級、B級にチャレンジするためにはいままでの勉強法に工夫を加えなくてははいけません。

国連英語検定試験の大きな特徴は2点あります。ひとつは、受験者のコミュニケーション能力を試すテストであるということ。ふたつめは、国連英語検定試験が国連の理解と普及を促進するひとつの手段であるために、国連や世界情勢に関しての知識の有無が合否の決定に影響するという点です。D級においては、ふたつめの点はほとんど強調されませんが、C級になりますとリスニングテストや長文読解テストに時事的なトピックが頻繁に出題されますので、D級受験者も今から時事英語の勉強をし始めても決して早すぎるということはないでしょう。

いままでの勉強法に工夫を加えるということは、英語のコミュニケーションの側面を重要視する勉強法をとるということです。D級試験ではリスニングテストが100問中20問を占めており、Spoken Englishを難無く理解できる特別なリスニング対策が必要です。また語彙問題に関しては約3,000語程度の習得が必要ですが、単語の丸覚えでは役に立たず、実践的に使える語彙（アクティブ・ボキャブラリー）を身につけなくてははいけません。また語彙問題の必要不可欠な戦略として、未知の単語に出会っても文脈や前後の文章から判断してその単語の意味を類推できる技能も必要です。読解問題に至っては、従来の一文一文の訳読ではテストに合格することはできません。各パラグラフのトピック・センテンス（主旨を述べた文）を見つけ主題を理解すること、次に設問に答えるために、skimming（走り読み）で全体像を理解し次にscanning（拾い読み）しながら詳細の情報をつかみとる作業など読解に必要なさまざまなスキルを身につけなくてははいけません。読む技能

も **critical reading** (批判的読解) の観点から筆者の意図をくみ取るコミュニケーション能力といえます。

言語習得は習慣形成によるとよく言われます。習性は訓練によって強化され、また使わなくては弱くなるものです。テレビの2ヶ国語放送を聞く習慣をつけたり、VOA(=Voice of America: 米国情報局の海外向け短波放送)を音楽がわりに流しておくのも英語を特別に意識しない勉強法として効果的です。また将来 **C** 級を目指される方は日本の新聞からでもかまいませんので、国連の活動に着目し、最新の情報を収集する習慣をつけるようにしてください。

英語学習の究極的な目標のひとつは英語を通じて国際感覚を高めることにあるのですから、自分の意見が日本語を使ってでも明確に打ち出せるように、情報収集に努めましょう。日本が国連の安全保障理事国の常任理事国に加わるべきか否か、あなたははっきりと自分の意見が言え、その理由づけができますか。自分の意見を言い表したいという強い動機がコミュニケーション・スキルを上達させる最も重要な要素です。日本の将来を担うみなさんにとって **D** 級受験はこのような自己表現力を磨くのによいきっかけになることでしょう。合格の栄冠を勝ち取られますよう、NCB 英会話教習所スタッフ一同が、あなたを応援します。

最後に、通常業務に追いやられ、**D** 級執筆の着手が遅れていた状況のなかで、執筆スケジュールの計画設定をし、編集の労をとっていただいた三修社の澤井啓允、小島和子両氏に心からお礼申しあげます。また『国連英語検定試験突破シリーズ』は私1人の仕事ではなく、執筆、校正などの協力を得た NCB 英会話教習所のプロジェクト・メンバーの助力なしでは完成しなかったこともここに付け加えたいと思います。

執筆協力者: Tony Barrera, Kenneth Moore, Paul Admiraal

校正協力者: 坂戸かおり、David Bodner、天満嗣雄、田中孝男

李 洙任

CONTENTS

国連英検とは	7
語彙の問題	20
対話文の問題	43
慣用表現の問題	66
文法と語法の問題	93
長文読解の問題	128
リスニングの問題	160
Practice Test	197

国連英検とは

国連英検の概要

国連英検を目指す人が増えてきました。実用英検に比べると国際的な視野の広がりを感じさせる内容になっており、国際化が進む現代のニーズにマッチしています。受験を通じて国際連合（以下、国連と略記）を改めて見直す機会ができることは、他の英語検定にはない大きな魅力です。また、われわれ日本人が国連職員(国際公務員)になろうとしたときに、外務省が語学能力を審査するためのテストとして国連英検を用いていることでもレベルの高さが実証されており、受験者にとって大いにチャレンジしがいのある試験です。

国連英検は正式名称を国際連合公用語検定・英語検定試験と言い、(財)日本国際連合協会（以下、国連協会と略記）の主催で 1981 年に発足しました。第 1 回試験が行われたのは同年 11 月 22 日で、翌年 1 月第 2 次試験が実施されました。この記念すべき第 1 回試験に挑んだのは 1,363 名、うち 359 名が合格しました。それからまだ 15 年ほどしか経過していませんが、国際化が進む現在の日本の状況を反映して、このところ知名度がどんどん高くなっています。それとともに受験者数も年々のびており、94 年度までの受験総数は 40 万人以上にのぼっています。

【1】 国連英検の目的

第 1 回試験の受験案内によると、「国際連合公用語検定の目的」として次の通り明記されています。

「国連公用語は、いわば世界各国間のコミュニケーションを円滑にする役割を果たすための言語です。航空機等の交通手段や通信技術の飛躍的な進歩に伴って、社会的・経済的関係がいつそう緊密になった現在、公用語の普及は世界的急務と言えます。」

国連協会では、公用語の普及・向上をはかるために検定制度を設け、国際的な友好と協力の担い手として真の国際人を世界に送り出すことを目的としています。」

また、94 年度受験案内にも「この試験は、外国語を駆使して国際人とし

て活躍できる能力と常識などをどの程度体得しているかをテストすること」が目的であるとしています。このことから、国連英検が国連公用語のひとつである英語を自由自在に使いこなし、同時に良識ある国際人として世界の舞台で活躍できる人材の育成を主目的としていることがわかります。

〔2〕 国連公用語

国連に加盟している国は 184 ケ国（1995 年 6 月現在）。これらの国々はそれぞれが独自の歴史・文化・言語を持っており、いまのところ、単一の「世界共通語」のようなものは存在しません。しかし、国連総会や国連の各機関での討議や記録については、ほとんどの国が容易に理解できる言語を使用するべきでしょう。このような考えから、国連はその設立時に、国連憲章第 111 条で中国語、フランス語、ロシア語、英語そしてスペイン語で書かれた憲章本文を等しく正文とすることを定めました。以来、国連で使用される言語は原則としてこれら 5 ケ国語とされるようになり、その後アラビア語が加えられ、国連総会等での公用語は現在 6 ケ国語となっています。そのうち、常用語として国連のすべての機関で共通して使われているのは英語とフランス語です。本来 6 ケ国語であるはずの国連公用語検定がまず英語から実施されているのも、このようなことが理由と思われるます。

〔3〕 国連英検の意義

受験案内にはさらに、「同時に、この試験を通じて国連に対する一般的理解を深めることも重要な目標」と書かれています。これが実は国連英検の大切な意義なのです。

国連英検を主催する国連協会は、1947 年に外務省外郭団体として設立された財団法人です。協会の主な活動は、民間の立場から国連協力を推進することで、とくに日本の国連加盟（1956 年）には、加盟促進の国民運動を展開して 30 万人の署名を国連に提出するなど、大きな役割を果たしたと言えます。

国連協会のさまざまな活動はすべて国連普及運動の一環として行われており、国連英検の実施もそのひとつです。すなわち、試験を通じて国連に対する理解を深め、ひいては世界平和に貢献しようということです。そのため試験に国連関係の問題を取り入れ、とくに B 級以上では *A Concise Guide to*

the United Nations (国連協会著、講談社発行)を指定テキストとしています。受験者は試験を受けるために必ずこの指定テキストを読むので、必然的に国連を再認識し国際問題に注目することになります。このことから、国連英検のねらいは見事に成功していると言えるでしょう。

〔4〕 国連英検の特徴

（１）国際人としての常識・資質が問われる

国連英検の最大の特徴は、英語での対応力が級によりさまざまな角度から問われることです。文法、文型の知識とともに、広い範囲の語彙力や口頭でのコミュニケーション能力が試される試験です。個々の年齢や立場に応じた英語の理解力は、国際人としてまず第一に要求される資質になるでしょう。

D級の評価基準は中学程度の基礎的な語彙力で、簡単な文章の理解と表現ができることとあり、文法、文型については、中学英語の指導要領の範囲内です。対象者は、中学生上級、高校初級程度ですので、中学の教科書を中心に復習するとよいでしょう。学習方法は模範となるテープを使い、文章を読まずにテープに続いてリピートするような練習も重ねてください。中学で習得する語彙数は約1,000語ですが、D級ではそれ以上の約3,000語の習得が必要です。読解問題で出題される問題では一般的な話題が多く、語彙数を増やす意味でも、時には英字新聞や雑誌に目を通す習慣をつけ始めてください。C級では時事英語が出題され、背景知識が大きなヒントとなりますので、新聞や雑誌での情報収集も重要な学習方法です。C、D級試験ではB級以上の指定テキストである *A Concise Guide to the United Nations* を読むことは義務づけられていませんので、直接国連に関する問題は出題されませんが、常識的なテーマが理解できるだけの知識の積み重ねは要求されるでしょう。B級以上では2次試験で面接試験が課せられますが、C、D級では面接試験はありません。しかし、リスニングテストの占める割合は大きいので、Spoken Englishに慣れ、口語表現力及び聴解力を強化する練習は大切です。

(2) 速読・速解が要求される

D 級は全 100 問の客観問題(マークシート式筆記試験)で、時間は 90 分間です。C 級も同じく 100 問で時間に対して問題量が多いのが特徴です。しかも、試験開始直後に実施されるテープによるリスニング・テスト(20 問)は、放送時間だけで 5～15 分を費やしますので、残りの問題を解くには素早い理解力と判断力が必要です。対話文の問題では短文が 10 問、長文が 20 問出題され、問題量としては最も多い分野です。問題文を読むうちにその状況設定を想像できなくてははいけません。空所補充の問題が中心ですので、適切な表現を選ぶには、この状況設定を想像する力が大きなポイントとなります。長文読解(10 問)においては、訳読法をとってはいは不要な時間を費やしてしまいますので、1 回目の読みでは各パラグラフのトピックセンテンスから長文の概要を理解することに努め、2 回目の読みで設問に答えられる情報を探し出すようにします。また問題となっているイディオムや表現の意味がわからなくても文脈から意味を素早く類推できる練習を積み重ねることも重要です。その他に文法と語彙の問題がそれぞれ 20 問ずつ出題されます。このように、問題量に圧倒されずに、テストに必要な戦略を駆使し、即座に解答を見分けられるような練習をしてください。できるだけ多くの過去の問題に触れ、本番に備えるようにしましょう。

(3) リスニング能力で合否が左右される

D 級問題 100 問のうち 20 問はリスニング・テストです。D 級の合格ラインは 60 点と推測されますが、もしリスニング・テストの準備が不十分だとすれば、残り 80 問に 80% 近く正答できなければ合格は困難ということになります。逆に、リスニングで得点が稼げればたいへん楽になるでしょう。このことから、リスニング・テストの成績いかんで合否が決まると言い過ぎではありません。

(4) 国連職員への選考試験に直結

将来国連で働くことを夢見る人は多いのですが、どのようにすれば国連職員(国際公務員)になれるかは、あまり知られていません。国連の日本人職員はまだまだ少なく、国別割り当てによる適正人数の半分以上であると言われ、長年の課題とされてきました。その原因はさまざまですが、雇用方法の問題

（空席ポストの募集方式）と語学力の問題が大きいと思われます。そこで外務省はアソシエート・エキスパートなどの制度を設け、志望者に国費で一定期間国連の各機関へ派遣する実地研修の機会を与えています。

この際、志願者が受ける選考試験（書類審査、語学審査、人物審査）のうち、語学審査に国連英検 A 級試験（1 次・2 次）が用いられています。国連英検の試験問題は、国連が職員を採用する際に使われる試験問題を参考にして作成されており、その点からも信頼性が高いのです。

国連で働くことを目標にする人にとっては、国連英検 A 級をクリアすれば夢が現実のものになりうるわけで、国連英検が目に見える具体的なターゲットとなるのです。

[5] 試験の概要

国連英検は特 A 級から E 級までの 6 段階にランク分けされています。受験者は評価基準と査定内容に従って自分の実力に応じた級を選ぶわけですが、おおよその見当をつけたら、過去の出題レベルや傾向をひと通り調べておくのがいいでしょう。試験は年 2 回行われ、午前（A、C、E 級）と午後（特 A、B、D 級）に実施されますが、隣接した級を同日の午前・午後を受験する（併願）こともできます。C、D、E 級は 1 次試験のみで合否が決定します。B 級以上では 1 次試験を通過すると 2 次試験を受験することができます、これにパスして初めて合格となります。

評価基準と査定内容

特 A 級	●評価基準 文法力、単語量を評価対象とするのではなく、国際常識を基に、国際社会での適応能力を判定する。国際会議に参加して、意思を伝え、自由に討論できる能力を保持していること。知識、態度、判断力等、真に国際人と呼ぶにふさわしい人。 ●査定内容 第1次テスト：筆記テスト（テープテストなし）。 第2次テスト：面談テスト（総合的英語力、適応力）。外国人とのフリートーキング（約15分）。第1次テスト合格者と第1次試験免除者が対象。
A 級	●評価基準 一般論文の理解および作成ができ、外国人との討論に参加しうる口頭表現力を備えていること。 一般社会人および大学卒業程度。 ●査定内容 第1次テスト：筆記テスト（テープテストなし）。 第2次テスト：面談テスト（外国人との面接約10分）。第1次テスト合格者と第1次試験免除者が対象。
B 級	●評価基準 英字新聞の概要を理解でき、外国での日常生活に必要な英語力を備えていること。 大学生から短大卒業、一般社会人に適当。 ●査定内容 第1次テスト：筆記テスト（テープテストなし）。 第2次テスト：面談テスト（外国人との面接約7分）。第1次テスト合格者と第1次試験免除者が対象。
C 級	●評価基準 高校英語の範囲内の英語力を身につけていること。国際的事象に関する簡単な文章を読んで理解できること。文法・文型については、高校英語の指導要領の範囲内。高校卒業程度。高校上級、大学初級、短大生から一般社会人まで幅広い人々に適当。 ●査定内容 筆記テスト：筆記とテープテスト（面談テストなし）。
D 級	●評価基準 主に中学英語の範囲内（語彙はその限りでない）で、簡単な文章の理解と表現ができること。 中学生上級から高校生向。 ●査定内容 筆記テスト：筆記とテープテスト（面談テストなし）。
E 級	●評価基準 中学2年程度の基本的な語彙と文法や文型を中心に出題。簡単な基本英文や会話英語、短くてやさしい物語が理解できること。中学中・上級程度。中学生から高校初級者向。 ●査定内容 筆記テスト：筆記とテープテスト（面談テストなし）。

[6] 出題の形式

すべてマークシート方式による、四者択一の設問が 100 問で、時間は 90 分です。マークシートは鉛筆で答えを塗り潰します。時間の割に問題量が多いですが、マークシートの解答欄には必ず全問記入するようにしましょう。問題指示文は日本語ですが、設問そのものは全て英文です。

(例) 次の各文の空所に最も適当なものを A, B, C, D の中から 1 つ選びなさい。

() she is sick, she insists on attending the party.

A. Although B. Since C. Even D. If

正解：A

これは短文の接続詞の空所補充問題です。また、対話文の問題では対話が成り立つように選択肢から正解を選ぶ問題もあります。

(例) Now what's all the fighting about?

A. What can I do for you?

B. Sorry about the mistake.

C. He took my letter.

D. Check your blood pressure.

正解：C

[7] D 級試験の概要

(1) 評価基準

一般的な話題に関する簡単な文章を読んで理解できること。中学英語の範囲内の英語能力を身につけていることとなっています。ただし、語彙は約 3,000 語程度必要と思われます。対象となるレベルは、中学生、高校生程度です。

(2) 試験内容

問題形式は空所補充が最も多く、その他に対話文完成、イディオムや語彙の書き換え、内容理解問題など多種多様です。短文が全部で 30 問と長文問題の 200 語前後の読解問題中心のものが 1 題(10 問)、または長文で空所補

充問題中心の場合は2題(20問)出題されています。最近出題されたものの中には「ヘレン・ケラーとアン・サリバン」「ハチの言語ダンス」「砂漠について」などがあります。このように内容は一般的なものが多く、一般常識を駆使すれば、未知の単語や表現の意味を類推できます。イディオムや語彙の問題は短文で出題されるため、基本語彙やイディオムの習得は試験前にはすませておいてください。対話文では日常会話程度の表現が多く出題されますので、日常会話でよく起こり得る状況での会話表現は確認しておきましょう。テープ・テストは対話文と200語程度の長文が出題され、試験開始の5分前には問題用紙を開いて見るできるので、設問や選択肢からある程度放送される内容が予測できます。内容を予測して1回目のリスニングに挑み、2回目のリスニングのときに、キーワードをメモにとるようにしておきましょう。

(3) 試験対策

中学のリーダーと文法の教科書の徹底的な復習が必要です。文法は本書で紹介されている文法重要点をよく理解し、英文は声を出しながら練習しましょう。また本書のリスニングの章での **Spoken English** の特徴に注意を払いながら、声を出してリピートの練習を重ねると生きた英語の語感が身につけてきます。語彙やイディオムの習得では必ず文中においての語法をマスターしながら単語の意味を覚えていくようにしてください。単語集やイディオム集は例文が記載されているものを選ぶようにしてください。また新聞や雑誌で生きた表現に触れるようにしましょう。D級受験者には、*The Student Times* などのように重要表現の日本語訳がある新聞が効果的だと思います。

テープテストの対策としては、ラジオ、テレビの英語講座などを利用して、できるだけ生きた英語に触れましょう。長期でも学習が続けられるように、肩のこらない学習法を選んでください。本書の別販売のテープを利用しただけ国連英語検定試験のテスト形式に慣れることも大切です。

●1 次試験(筆記)	90 分	100 点満点
	客観テスト	80 点
	テープテスト	20 点
●2 次試験		なし
●合格ライン		60 点程度
●94 年度応募者数		8,740 人
●同 合格率		46.3%

[8] C 級試験の概要

(1) 評価基準

国際的事項に関する簡単な文章を読んで理解できること、高校英語の範囲内の英語能力を身につけていることとなっています。ただし、語彙については高校英語に限らないので約 5,000 語程度必要と思われます。対象となるレベルは、一般社会人および高校上級、大学初級、短大、専門学校程度です。

(2) 試験内容

空所補充問題、対話文完成、イディオムの書き換え、誤文訂正、内容理解など多種多様な問題形式によって基礎英語力が試されます。与えられる英文は、長文の場合 200 語前後のものが 2-3 題で、最近出題されたものの中には、「環境問題」「アメリカの自動車運転免許の取得年齢」「アジア経済」などがあります。短文は 1、2 行のものが出題され、日常的な内容が中心です。このほか、対話文が 1・2 題毎回出題されています。対話文では、的確に状況設定を想像できなくてはいけません。全 100 問と問題量が多いので、問題量に圧倒されないよう時間配分に気をつけてテストに挑みましょう。

テープテストは聞き取りの正確さを問うもので、94 年度には「森林破壊」「米国での日本語熟」など、200 語程度のまとまった内容のもので、やや難解な表現も出てきています。D 級と同じく、試験開始 5 分前には問題用紙を開いて見ることができますから、設問や選択肢からある程度内容の予測をすることが効果的な戦略です。